

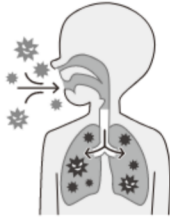


近年増加し女性に多い肺の病気 ～肺非結核性抗酸菌症について～

【肺非結核性抗酸菌症とは】

結核菌とらい菌以外の抗酸菌が肺に感染した病気です。この菌は水まわりや土壌などの自然・家庭環境に広く存在し、人から人への感染はなく、環境から人への感染と考えられています。原因は不明ですがアジア人や中高年のやせ形の女性の感染・発症が多く、もともと肺に病気がある方・他の病気などによって免疫の低下している方にも多く感染・発症します。

症状は、長く続くせき・たん・血痰・微熱が主であり体重減少を伴う場合もあります。2～3割は無症状で、検診レントゲン異常などで偶然発見されます。



【増加する罹患率】

日本はもともと世界でも有数の罹患率(人口10万人に対する罹患者数)が高い国であり、2014年は14.7(24.0との報告もあります)と2007年と比較し2.6倍に増加しています。増加原因は医

療者側の疾患認知度と診断精度の向上、高齢化、検診機会の増加などがいわれていますが、明らかな理由は不明です。

【予防策と検査・治療方法】

普段からのお風呂場使用後の乾燥の励行やガーデニングをする時のマスクの着用が予防策となります。

検査は喀痰培養検査で非結核性抗酸菌の有無、胸部CT検査などで本疾患に特徴的な画像所見の有無を調べます。補助診断として血液検査で菌に対する抗体価を調べます。治療は長期の内服薬が中心となりますが、全



ての方を治療するわけではなく症状や画像所見が軽微で進行せず安定していれば無治療経過観察となります。

お心当たりのある方は専門医の受診をお勧めします。
問 市立甲府病院…☎(244) 1111

お医者さんにかかるときは

問健康保険課…☎(237) 5371

医療機関を上手に受診しましょう

同じ病気で安易に医療機関を受診すると医療費の増加に加え、検査や薬の重複で体への影響が心配されます。治療法に不安がある場合は医師に相談しましょう。

かかりつけ医を持ちましょう

体調に気になることがあった場合、自分の病歴や健康状態を把握している「かかりつけ医」がいると安心です。



お薬手帳を活用しましょう

薬は用量・用法を守って服用しなければ効果が得られないばかりか、副作用を生じることがあります。手元に飲み残した薬やすでに処方されている薬がある場合は、医師や薬剤師に相談しましょう。

「お薬手帳」を1冊にすると処方薬の確認ができますので、受診の際は医師に「お薬手帳」を提示しましょう。



家計にもやさしいジェネリック医薬品を活用してみませんか？

ジェネリック医薬品は、厚生労働省が安全性や効き目が新薬(先発医薬品)と同等と認めている薬です。開発コストが抑えられるため低価格となり、皆さんの薬代負担軽減や安定した医療保険制度の維持にもつながります。

※変更できない薬や取り扱いのない薬もあるので、ご利用の際は医師や薬剤師に相談しましょう。現在、一部のジェネリック医薬品の供給に不安定な状況が見受けられ、薬局などで購入できない場合があります